

東京都立杉並高等学校創立七十周年記念式典 式辞

本日ここに、東京都立杉並高等学校創立七十周年記念式典を、東京都議会議員の皆様、歴代の校長先生方、区内高等学校長の先生方、本校を支えていただいている学校運営連絡協議会委員、同窓会、PTA、杉香会の皆様、地域住民の皆様をはじめとする多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、挙行できますことは誠にうれしく、高いところからではございませんが、生徒、教職員を代表して、厚く御礼申し上げます。

本校は、今年度創立71年目を迎えます。これまで、建学の精神に「自主・素直・気魄」を掲げ、素直な心と強い意志をもって自分で正しく判断し、物事に取り組むとともに、明るく活動的な、素晴らしい校風を作り上げてまいりました。

本校は昭和28年4月に開校しました。同年にPTA、生徒会が創立され、翌年昭和29年より千葉県館山の北条寮で、臨海学校を実施し、その後平成3年まで継続しました。また同年、土岐善磨（トキゼンマロ）氏作詞、酒井弘（サカイヒロム）氏作曲の校歌が完成しました。昭和31年には同窓会が創立され、第一回文化祭が開催されています。昭和38年には、就学生徒の増大に伴い11学級572名もの入学生を迎えました。昭和40年には、男子庭球部が関東大会出場、国体優勝、演劇部が文部大臣奨励賞受賞など、部活動の活躍が報告されています。そして、昭和56年には、第一回の合唱祭が中野公会堂で開催されています。また、平成16年第44回東京都吹奏楽コンクール高等学校の部で吹奏楽部が金賞を受賞したことが記録されており、その後現在まで活発な活動を継続しています。本校は全日制と定時制が併置されておりましたが、平成22年3月に定時制は閉課程となり、記念式典が挙行されました。また、平成27年度入学生から、それまでの標準服が、現在の制服として定められました。その後、グローバル人材の育成と国際理解教育の推進を目指し、福島のリティッシュヒルズでのイングリッシュキャンプとニュージーランドへの海外語学研修を平成29年から実施し始めました。また、平成30年度から台湾への海外修学旅行が開始され、新型コロナウイルス感染症の影響で中断もありましたが、今年度再開する計画を進めており、現在に至っています。

現在、本校は東京都教育委員会から「英語教育研究推進校」「海外学校間交流推進校（国際交流リーディング校）」などの指定を受け、特色ある学校づくりを進めています。特に、使える英語の四技能を身に付けるとともに、今後さらに国際化が進む社会でリーダーとして活躍することができるグローバル人材の育成を目指すことをスクールミッションに掲げました。新型コロナウイルス感染症の状況下でも、東京グローバルゲイトウェイ体験学習、英語技能試験のGTEC受験、英語検定受験の奨励と指導、11月に実施予定の2年生の台湾への海外修学旅行、12月のイングリッシュキャンプ、3月のニュージーランドへの海外語学研修等の計画を進めており、それに伴い海外からの留学、交流行事、授業体験も受け入れています。現在もタイからの留学生1名が2年生に在籍

しています。昨年度も台湾の姉妹校である台中市立台中家事商業高級中等学校と英語を使ってオンライン交流を実施しました。3月にはトルコ共和国大使館から大使をお招きした講演会を実施し、数多くの質問が出て、大使は大変喜んでおられました。来年度には、台湾からの学校訪問とニュージーランドからの学校体験を受け入れる予定です。

本校は、『自主、素直、気魄』を建学の精神とし、国際理解教育や体系的なキャリア教育、自主的、主体的な特別活動を通じて、豊かな国際感覚を備え、より高い目標に向かって挑戦し、多様性を尊重して共生社会の中で積極的に社会的役割を果たす人材を育成する。」ことをスクールミッションに掲げております。現在、日本は少子高齢化が進み社会構造が大きく変化し、AIなどの科学技術が急速に発展し、ChatGPTの教育への影響が議論されています。そして、世界に目を向けると、戦争、紛争などが後を絶ちません。また、我々人間による環境破壊、海洋汚染、気候温暖化、食糧危機、貧困問題などの問題、人類の未来に大きな影響を及ぼす宇宙開発や進化するAIの利活用、ジェンダー問題や、人種差別問題など世界規模の課題が山積しています。生徒の皆さんには、普段の授業と「総合的な探究の時間」や、修学旅行等の課外活動をとおして、これらの世界規模の課題に関心を持ち、生涯をかけて取り組み、解決するため、学ぶ方法と態度を身に付け、思考力、判断力、表現力を身に付けてほしいと強く望みます。

また、本校の目指す学校像は、「豊かな国際感覚を備えたグローバル人材を育成する学校」であり、国際社会に生きる一員としての自覚を持ち、グローバル化の進展の中で、柔軟な思考に基づいて、たくましく生き抜く人間を育成することです。皆さんには、東京都という地域社会に貢献するだけにとどまらず、世界にも目を向け、高い志をもってグローバルな視点で物事を考え、世界の平和や世界規模の課題解決に貢献することのできる人材となることを期待しています。

新型コロナウイルス感染症の影響で、これまで思うように活動できなかった生徒の皆さんや先生方に向けて、私が何かうまくいかなかった時、我慢しなければならない時に、手帳に書き留めて何度も読み返してきた言葉を送ります。

悪い時が過ぎれば、よい時は必ず来る。

おしなべて、事を成す人は、必ず時の来るのを待つ。

あせらずあわてず、静かに時の来るのを待つ。

時を待つ心は、春を待つ桜の姿といえよう。

だが何もせずに待つ事は僥倖を待つに等しい。

静かに春を待つ桜は、一瞬の休みもなく力を蓄えている。

たくわえられた力がなければ、時が来ても事は成就しないであろう。

これは、パナソニックの創業者の松下幸之助氏の言葉です。

「誰でも思い通りにならない時というのはあります。そんな時には、桜の木が春を待

つようにチャンスを待ちましょう。何もせずに待っているのは、僥倖、つまり偶然の幸運を待っているにすぎません。桜の木は休むことなく力を蓄えています。私たちもチャンスが訪れる日まで、水滴石穿の思いで、わずかな努力で良いので、コツコツと努力を継続し、力を蓄えよう。」というメッセージをこめています。

本校のこれからの10年は、Society 5.0と言われる社会の劇的な変化の中で、果敢に挑戦をする時期と考えています。大学入試制度の改革に伴い大学入試共通テストが実施され、来年度は新学習指導要領施行後最初の大学入試が実施されます。慌てず、騒がず、自ら学び、考え、協働的に課題解決できる生徒を育成するため、教職員一丸となって、生徒を導いてまいります。

最後に、本日も列席賜りました皆様には、今後とも本校への変わらぬご指導、ご鞭撻をお願い申し上げ、また、皆様の益々のご健勝とご発展を祈念し、私の式辞といたします。

令和五年六月二十四日

東京都立杉並高等学校長 高橋 聡